

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項に基づく

教育に関する事務の点検及び評価
(事業別評価シート)

平成 28 年 11 月

成田市教育委員会

目次

施策の基本目標	1
施策の体系	2
柱1 成田の個性を活かした国際交流・地域文化の発展を図る	3
個別事業1 英語科研究開発事業（教育指導課）	4
〃 2 文化財保護啓発事業（生涯学習課）	5
〃 3 文化財等維持管理事業（生涯学習課）	6
〃 4 国際こども絵画交流展開催事業（生涯学習課）	7
〃 5 市史編さん事業（図書館）	8
〃 6 成田山門前町研究事業（図書館）	9
柱2 子どもも大人もともに学び育つ教育を推進する	11
個別事業7 小学校校内 LAN 整備事業（教育総務課）	13
〃 8 小学校大規模改造事業（学校施設課）	14
〃 9 大栄地区小中一体型校舎建設事業（学校施設課）	15
〃 10 教師用教科書指導書購入に係る経費（学務課）	16
〃 11 小中学校連携教育推進事業（学務課）	17
〃 12 学校支援地域本部事業（学務課）	18
〃 13 個性を生かす教育推進事業（学務課）	19
〃 14 小中学校就学援助費支給事業（学務課）	20
〃 15 養護補助員配置事業（教育指導課）	21
〃 16 学校図書館司書配置事業（教育指導課）	22
〃 17 学力調査事業（教育指導課）	23
〃 18 特色ある学校づくり事業（教育指導課）	24
〃 19 教育支援センター運営事業（教育指導課）	25
〃 20 教育センター運営事業（教育指導課）	26
〃 21 問題を抱える子ども等の自立支援事業（教育指導課）	27
〃 22 特別支援教育支援員配置事業（教育指導課）	28
〃 23 学校給食事業（学校給食センター）	29
〃 24 学校給食施設整備事業（学校給食センター）	30
〃 25 青少年健全育成事業（生涯学習課）	31
〃 26 放課後子ども教室推進事業（生涯学習課）	32
柱3 生涯を通して学びスポーツができる環境づくりを推進する	34
個別事業27 生涯大学校管理運営事業（生涯学習課）	36
〃 28 明治大学・成田社会人大学運営事業（生涯学習課）	37
〃 29 国際文化会館管理運営事業（生涯学習課）	38
〃 30 文化芸術センター管理運営事業（生涯学習課）	39
〃 31 健康づくり運動「健康ちば 21」推進事業（生涯スポーツ課）	40
〃 32 各種競技大会誘致事業（生涯スポーツ課）	41
〃 33 スポーツ団体育成事業（生涯スポーツ課）	42
〃 34 スポーツ広場等管理事業（生涯スポーツ課）	43
〃 35 運動公園等整備事業（生涯スポーツ課）	44
〃 36 公民館講座教室等開催事業（公民館）	45
〃 37 公民館施設維持管理事業（公民館）	46
〃 38 公民館大規模改修事業（公民館）	47
〃 39 図書館事業（図書館）	48

施策の基本目標

1. 学校教育の推進

教育を取り巻く環境が大きく変化しつつある中で、いつの時代においても子どもたちが未来への夢や希望を抱き、心身ともに健やかに成長し、多様な可能性を伸ばしていく教育環境を築くことが重要です。

このため学校教育においては、平成 18 年 12 月の教育基本法の改正及び、平成 19 年 6 月の学校教育法の改正に基づき、子どもたちの「確かな学力」や「豊かな心」などの「生きる力」の育成を目指して、それぞれの学校や地域での創意工夫を活かした特色ある教育活動を展開します。

2. 生涯学習の推進

国際化や情報化が進む 21 世紀は、「こころ」と「こころ」を結ぶコミュニケーションづくりを充実させ、「人のつながり」を大切にした市民生活が重要となります。

生涯学習の推進にあたっては、世界の人々に対して誇れるような個性と広い視野を備え、互いに助け合い共に学びながら、社会情勢の変化に対応し、自立して生きていける「国際市民」を育むことを目指し、各種施策の推進に努めます。

基本目標を実現するために、次の三つの柱を基本施策とし、個別事業を推進するうえでの指標とします。

施策の体系

柱1 成田の個性を活かした国際交流・地域文化の発展を図る

成田の国際性や伝統文化といった、成田の個性を活かした教育を推進します。また教育を通じた各種交流を推進します。

柱2 子どもも大人もともに学び育つ教育を推進する

学校・家庭・地域が一体となった教育を推進し、子どもから大人までともに学び、成長していく教育を推進します。また、自ら学び考え行動するための「確かな学力」と「豊かな心」を育むための教育を推進します。

柱3 生涯を通して学びスポーツができる環境づくりを推進する

市民が生涯を通して学び、スポーツ活動を行える環境づくりや学習成果が発表でき、地域の活性化につながる環境づくりを推進します。

柱1 成田の個性を活かした国際交流・地域文化の発展を図る

施策の方向

- ・ 英語教育及び国際理解教育の推進
- ・ 市の資源を活用した多様な方法による国際交流の推進
- ・ 海外帰国児童生徒や在住外国人に対する教育と交流の推進
- ・ 歴史や伝統文化に学ぶ
- ・ 文化財や伝統文化の保存継承

総合評価	B 概ね目標を達成できた、または目標達成に向けて進んでいる
評価所見	<p>各事業とも概ね適正に運用がなされており、いくつか課題はあるものの、一定の成果は出ているものと評価できる。</p> <p>英語科研究開発事業については、学力調査結果において素晴らしい結果が出ており、これは国際都市として先進的な取り組みを実施してきた成果である。今後は、新しい学習指導要領のもと、小学校から英語が必修科目となることから、本市の強みである英語教育をどのように維持継続していくのか、早めの検討が必要である。</p> <p>国際こども絵画交流展開催事業については、子どもたちが異文化を感じることができる貴重な事業であり、国際交流の視点からも、企画内容や募集方法について工夫をするなど、さらなる発展・拡大を期待したい。</p> <p>歴史、文化に関する事業としては、文化財保護啓発事業や文化財維持管理事業、市史編さん事業、成田山門前町研究事業とあるが、共通する課題としては、いかに若い世代に浸透させて次世代に引き継いでいくかということがある。若者が参加する他事業と連携しての実施や、周知方法の改善、発行する冊子の内容の工夫など、幅広い世代を取り込むよう、引き続き努力をしてもらいたい。</p> <p>ふるさと成田の良さを理解し、海外にその魅力を説明できてこそ、真の国際市民となることから、英語教育・国際理解教育だけでなく、歴史・文化との両輪で施策を展開する必要がある。</p>

評価指標：A 目標を達成できた、または目標達成に向けて順調に進んでいる

B 概ね目標を達成できた、または目標達成に向けて進んでいる

C 目標どおり進んでいるが、一部達成できなかった

D 目標の達成ができなかった、または目標の達成は困難である

個別事業 1

事業名	英語科研究開発事業	担当課	教育指導課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額	
	168,115千円	170,105千円	
28年度予算額 (参考)	180,986千円		
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>本市には日本の表玄関「成田空港」があり、国際理解教育の推進が求められている。そのため教育課程特例校として英語科を設置し、小学校においては、1から4学年までの児童に対し、週2回20分の英語授業を、5から6学年までの児童に対しては、週2回20分の授業に加え、45分の授業を週1回実施し、実践的なコミュニケーション能力の基礎を育成した。また、中学校においては、標準の年間140時間の英語授業を155時間～158時間に拡充し英語によるコミュニケーション能力の育成及び国際理解教育の充実を図った。</p> <p>平成27年度は、外国人英語講師48人を35校に配置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校外国人英語講師配置 31人 ・ 中学校外国人英語講師配置 17人 ・ 小中英語教育検討委員会の開催 年4回 ・ 小中英語教育作業部会の開催 年5回 小学校英語科標準年間指導計画作成委員会の開催 年5回 		
評価指標①	英語講師配置学校数	35校 (H26年度 35校)	
評価指標②	英語講師配置人数	48人 (H26年度 48人)	
評価指標③	受講した児童生徒数	10,786人 (H26年度 10,696人)	
評価結果及び今後の方向性	<p>本市は国際都市として、これまで全国的にトップレベルの英語教育、国際理解教育を推進してきており、一定の成果を上げている。</p> <p>また、全校に外国人英語講師を配置するだけでなく、外国人英語講師を育てるための質の高い研修を実施するなど、他市にない取り組みを実施していることや、学習意欲だけにとどまらず、学力調査結果においても、素晴らしい結果を残せたことも評価できる。</p> <p>ただし、小学校の「聞く」「話す」から、「読む」「書く」が重視される中学校英語へのスムーズな移行については、引き続き課題克服のために力を入れていきたい。</p> <p>なお、2020年度より順次実施される新学習指導要領において、小学校高学年から英語が正式な教科となる。</p> <p>児童生徒にとって、過度な負担とならないように留意しつつ、本市の今後の取り組みについて早期に検討を進めていきたい。</p>		

個別事業 2

事業名	文化財保護啓発事業	担当課	生涯学習課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額	
	2,047 千円	1,916 千円	
28年度予算額 (参考)	2,584 千円		
評価年度 (H27 年度) 事業内容	<p>文化財を広く市民に知っていただくために、説明板等の設置、修復他、『成田市の文化財』を発行するとともに、収集している文化財や関係資料について下総歴史民俗資料館等に展示して、郷土の歴史についての理解を深めている。</p> <p>更に、市内に点在する文化財の周知・啓発を進めるため、特に重要な考古資料については、展示公開できるよう修復・復元を行った。</p> <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○『成田市の文化財』第 47 集を刊行した。 ○史跡めぐり 3 回、歴史講演会 2 回 計 5 回開催した。 ○雉ヶ原遺跡縄文土器（注口土器）の修復を行った。 		
評価指標①	啓発用印刷物発行数	1 冊 (H26 年度 1 冊)	
評価指標②	史跡めぐり・講演会参加者数	310 人 (H26 年度 310 人)	
評価指標③	説明板等設置数	2 箇所 (H26 年度 2 箇所)	
評価指標④	文化財等修復数	2 件 (H26 年度 3 件)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>本市には、貴重な多くの文化財が存在しているが、子どもから大人まで幅広く多くの市民に知ってもらうためには、さらなる取組が必要である。</p> <p>また、過去に子ども会との連携や出前説明などを実施してきていることは評価できるが、史跡めぐりを親子参加型にするなど、若い世代も参加しやすくする工夫があるとさらに良い。</p> <p>他市では大学生や高校生を活用して事業展開しているところもあるので、次世代の人材を育成するためにも、様々な検討をしてみたい。</p>		

個別事業 3

事業名	文化財等維持管理事業	担当課	生涯学習課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額	
	8,338千円	14,259千円	
28年度予算額 (参考)	10,410千円		
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>文化財保護に対する関心や理解を深めるため、市内数箇所の文化財倉庫において文化財資料・埋蔵文化財等の図面・写真類を良好な状態で保管している。</p> <p>また、指定文化財の保護のため、修理や管理に対する補助等を行った。</p> <p>伊能歌舞伎については、昭和55年に県指定文化財の指定解除後、平成11年に復活上演、旧大栄町がまちおこし事業の一環として育成を行った経緯がある。現在は成田市指定の無形民俗文化財となっており基金を活用し支援を行った。</p> <p>【平成27年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指定文化財管理補助金 28団体 ○伊能歌舞伎公演 春と秋の2開催 ○指定文化財修理補助金 		
評価指標①	補助金交付	28団体 1,918千円 (H26年度 27団体 1,898千円)	
評価指標②	補助金交付	伊能歌舞伎保存会 1,355千円 (H26年度 1,355千円)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>市内にある貴重な文化財は、一度失われたら取り返しのつかないものであることから、行政の支援による維持管理は必要である。</p> <p>また、大栄地区の伊能歌舞伎については、貴重な無形文化財として次代に継承することが重要であり、今後も保存に向け、継続した支援を行っていただきたい。</p> <p>なお、補助金については、支出するだけでなく、若い世代を育てていく視点を持って啓発を絡めていくことも大事であり、中身を精査する必要がある。</p>		

個別事業 4

事業名	国際こども絵画交流展開催事業	担当課	生涯学習課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額	
	2,500千円	2,500千円	
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>広く世界各地の“こどもたち”と、成田市内の“こどもたち”の絵画作品を紹介することにより、21世紀を担うこどもたちの夢と創造力を育み、絵画を通じてお互いの生活や文化について理解を深め合うとともに、市民の芸術文化の振興と発展に寄与することを目的としている。</p> <p>平成27年度は展示会場を成田山新勝寺大本堂第二講堂から成田市文化芸術センター スカイトウンギャラリーに変更し、11月に開催した。</p> <p>また、交流展終了後には、成田市役所等にて巡回展示を実施した。</p> <p>開催期間：平成27年11月14日（土）～11月23日（月）</p> <p>応募作品数：市内小中学校33校から834点、海外14ヶ国から591点</p> <p>来場者数：会期10日で延べ1,249人</p> <p>テーマ：「遊び-Play-」</p>		
評価指標①	延べ開催日数	10日（H26年度 10日）	
評価指標②	来場者数	1,249人（H26年度 3,372人）	
評価指標③	作品点数	1,425点（H26年度 1,732点）	
評価結果及び 今後の方向性	<p>「国際都市」にふさわしい事業であり、子どもたちが異文化を身近に感じ、子どもたちの夢と想像力を育む、貴重な事業である。</p> <p>スカイトウンホールでの開催初年度ということで、来場者数が減少したのは残念だが、今後の発展に期待をしている。</p> <p>また、作品募集については、夏休み期間だけでなく、中学校の美術部などを対象に、通年で募集をしても良いのではないかと考えている。</p> <p>なお、2020年の東京オリンピック・パラリンピックと絡めたテーマの設定や、直通便のある海外の都市や航空会社の協力を得るなど、発展的な企画構想をしてみたいと考えている。</p>		

個別事業 5

事業名	市史編さん事業		担当課	図書館
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額		28年度予算額 (参考)
	6,527千円	6,680千円		7,109千円
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>市域に関する歴史的資料の収集・保存(管理)を図ること、また、調査・研究等の過程で得られた資料を共有の財産として広く活用・提供することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 『成田市史研究』第40号の発行 A5判・141頁、発行部数700部 市史資料のデジタル化 成田地区の村絵図資料(江戸時代～明治初期)8点、成宗電車線路平面図1点 市史資料の展示 『下総地区4小学校のあゆみ-下総歴史民俗資料館企画展 移動展示-』 『学校日誌』市史講座関連展示 『成宗電車』 協力・資料提供：成田山霊光館 マイクロフィルム撮影 猿山尋常小学校・西大須賀尋常小学校の学校日誌24点、青年団記録他33点 聞き取り調査 可瀬力元下総町長 (成田国際空港開港や市町村合併などについて、成田市史研究第40号に掲載) 市史講座 『明治「学制期」における小学校の創設と下総地区4小学校のあゆみ』 講師：神尾武則氏(元成田市史編集委員) 島田七夫氏(香取市文化協会連合会会長) 			
評価指標①	市史研究冊子の作成		1冊子(H26年度 1冊子)	
評価指標②	市史研究配布・市史頒布数		440冊・110冊(H26年度 440冊・162冊)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>ふるさと成田の貴重な歴史を記録し、次世代に伝承していく上で重要な事業である。多くの市民が関心を抱くという性質のものではないが、価値ある重要な資料を収集保存し、調査・研究の成果を広く市民に活用していただくよう、取組を続けていきたい。</p> <p>また、小学校3・4年生の社会科副読本への情報提供を行ったことは有意義である。</p> <p>さらに多くの方に活用していただくためにも、市史研究冊子の内容・構成や配付方法等については引き続き改善を進めて欲しい。</p>			

個別事業 6

事業名	成田山門前町研究事業	担当課	図書館
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額	
	5,000 千円	4,517 千円	
28年度予算額 (参考)	5,633 千円		
評価年度 (H27 年度) 事業内容	<p>成田山門前町の歩みや移り変わりについて、これまでの資料を最大限に活用しながら、地域に伝わる様々な行事・生活文化等を記録に残すことを目的に事業を実施する。</p> <p>聞き取り調査という手法で記録し、既存の資料の確認・検証、新たな資料の発掘などにより考察、既刊刊行物の補完なども行う。</p> <p>また、本事業は、地元成田への関心を高め、観光や将来のまちづくり等への活用・貢献を目指すものでもある。</p> <p>1. 委託先 慶應義塾大学 鈴木正崇研究室（専門：民俗・歴史・社会学等）</p> <p>2. 本調査 年中行事（女人講・祇園祭・新勝寺関連）を中心とした活動の参与観察及び聞き取り調査</p> <p>3. 調査概要等の報告</p> <p>① 『成田市史研究』第40号に掲載 「成田山門前町調査研究事業報告-平成26年度・平成27年度-」</p> <p>② 『広報なりた』に掲載（月1回連載、7月15日号で終了・全12回） 「門前町に生きる - 過去・現在・未来 - 」</p> <p>【調査計画】 平成25年度 予備調査・本調査 平成26年度 本調査 平成27年度 本調査 平成28年度 小冊子刊行（補足調査）</p>		
評価指標①	調査概要報告(報告書・市史研究・広報等)	3冊 (H26年度 3冊)	
評価指標②	講演会等の開催	0回 (H26年度 1回)	
評価結果及び今後の方向性	<p>成田山門前町に伝わる身近な行事や生活文化など、様々な事柄を次世代に継承するための重要な事業である。</p> <p>3年間かけて調査した集大成として、今年度冊子が刊行されるようだが、まだ全容が分からないのが残念である。早期の刊行が待たれる。</p> <p>また、冊子の刊行に際しては、広報等を丁寧に行い、広く市民に周知することを期待する。</p>		

その他の事業

- ・ 下総歴史民俗資料館管理運営事業（生涯学習課）
- ・ 三里塚御料牧場記念館管理運営事業（生涯学習課）
- ・ 埋蔵文化財調査事業（生涯学習課）

ほか

柱2 子どもも大人もともに学び育つ教育を推進する

施策の方向

- ・ 学校・家庭・地域が一体となった教育体制の充実
- ・ 各小中学校の特性を活かした教育の充実
- ・ 青少年の健全育成
- ・ 義務教育における教育内容の充実
- ・ 教育施設の改善と地域への開放
- ・ 義務教育における教育環境の整備
- ・ 健やかな心と体づくり
- ・ 学校規模の適正化及び通学区域の弾力化
- ・ 幼児教育の充実
- ・ 高等学校や大学などとの連携強化

総合評価	A 目標を達成できた、または目標達成に向けて順調に進んでいる
評価所見	<p>老朽化した校舎の大規模改造をはじめ、大栄地区の小中一体型の校舎建設等、ハード面での整備事業については、概ね適正な管理及び執行状況と認められる。学習環境が子どもたちの心の安定や学習効率に与える影響は大きいことから、引き続き安心安全で魅力ある教育環境づくりを推進されたい。</p> <p>また、現在の子どもやその保護者は様々な悩みを抱えており、経済的にも問題を抱えた家庭もある。そのような様々な課題に対しても、教育相談員の配置や教育支援センターにおける不登校対策、就学援助費支給事業での経済的なサポートなど、多方面から事業を展開していることは大変有り難い。同様に特別な支援を要する子どもに対しても、養護補助員や特別支援教育支援員の配置等を行っていることも安全安心な教育環境を維持する上で大切なことである。いずれの事業についても件数や対象者数が増えてきているため、さらなる事業の拡充を願いたい。</p> <p>学力向上に向けては、個性を生かす教育推進事業において、きめ細かくサポートしていることは、学力差を小さくするためにも有効である。学力調査事業においても、個人の傾向等を分析してフィードバックするなどのきめ細かい対応を望みたい。</p> <p>また、放課後子ども教室事業や学校支援地域本部事業において、地</p>

	<p>域ボランティアとともに子どもの活動拠点づくりや学校運営等を行うことはとても有意義なことである。運営上の負担が過多とならないよう配慮しつつ、適切な人材の確保に努めながら、引き続き事業を推進していただきたい。</p> <p>子どもたちの教育は、学校・家庭・地域社会が相互に連携して行われることが重要であることから、今後も改善を図りつつ、各事業のさらなる発展に努めてもらいたい。</p>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- 評価指標：A 目標を達成できた、または目標達成に向けて順調に進んでいる
- B 概ね目標を達成できた、または目標達成に向けて進んでいる
- C 目標どおり進んでいるが、一部達成できなかった
- D 目標の達成ができなかった、または目標の達成は困難である

個別事業 7

事業名	小学校校内 LAN 整備事業		担当課	教育総務課
事業費	26 年度決算額 (参考)	27 年度決算額		28 年度予算額 (参考)
	45,630 千円	48,668 千円		52,812 千円
評価年度 (H27 年度) 事業内容	<p>コンピュータに慣れ親しませることを基本として、情報化技術の活用能力育成や、教科指導における効果的な教育を行うため、学校内のネットワークを整備するとともに、校務の効率化を図るため、図書室の貸し出し用パソコンをはじめ、職員室の校務用パソコン及びプリンター等の周辺機器の整備を行う。</p> <p>コンピュータ等の調達は、すべてリース契約（59 ヶ月）とし、事業費の年度間の均一化を図っている。なお、契約は成田地区、下総地区、大栄地区、新設校のグループ毎に、年次を分けて行っている。</p> <p>【平成 27 年度】 公津の杜小の職員室等に校務用コンピュータ及び周辺機器一式の入替を行った。</p> <p>また、平成 28 年度から本格的にタブレット等を導入することから、普通教室等への校内 LAN が未整備の小学校についても、平成 28 年度から順次整備していく予定となっている。</p> <p>そのほか、教職員の負担軽減に向けた、市内共通の校務支援システムの導入が今後の課題となっている。</p>			
評価指標①	職員室等のパソコン台数	622 台 (H26 年度 609 台)		
評価指標②	教職員数 (本務者数)	506 人 (H26 年度 502 人)		
評価結果及び今後の方向性	<p>ICT化により、校務処理や教育活動の効率を向上させることは、時代の求める流れであり、必要なことであるため、早期に校務支援システムを導入することを期待する。</p> <p>また、タブレット等を活用するためには、普通教室への LAN 整備は必須であることから、順次整備を進めて欲しい。</p> <p>そのほか、セキュリティ対策や、教職員のスキルアップや指導をしっかり行い、情報漏えいなどの問題を未然に防ぐとともに、ICT 機器を十分に活用できるように支援をしていただきたい。</p>			

個別事業 8

事業名	小学校大規模改造事業	担当課	学校施設課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額	
	652,675千円	834,968千円	
28年度予算額 (参考)	575,642千円		
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>教育環境の改善を図るとともに、学校施設の耐久性を確保するために、建築後 30 年を目処に老朽化した学校施設の大規模な改修を行う。</p> <p>【平成 27 年度】 新山小学校北棟改修工事の実施設計等を行うとともに、吾妻小学校東棟及び新山小学校南棟改修工事と、それら工事期間中の代替校舎となる仮設校舎を借り上げた。</p>		
評価指標	設計件数	1 件 (H26 年度 1 件)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>子どもたちに安全な教育環境を提供することは、とても重要な事であり、教育環境の改善と学校施設の耐久性を確保するため、計画的に適切な整備を実施されたい。</p> <p>また、大規模改修工事を行う際は、子どもたちや教職員に対する負担をできるだけ減らすよう、工期等、なお一層の配慮をお願いしたい。</p> <p>なお、学校施設は避難所としての機能も有していることから、安全で適切な整備を実施されたい。</p>		

個別事業 9

事業名	大栄地区小中一体型校舎建設事業	担当課	学校施設課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額	
	51,162千円	55,084千円	
28年度予算額 (参考)	111,418千円		
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>地区全域で児童数が減少傾向にある大栄地区の学校規模適正化を図るため地区内小学校5校を統合するとともに中学校との小中一体型校舎を建設する。</p> <p>【平成27年度】</p> <p>校舎・体育館・外構工事の実施設計に着手した。また、地質調査及びプール解体工事等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開校年度 平成34年度 ・統合校舎 普通教室21教室、特別支援教室4教室 ・開校時の見込み児童生徒数 約640人 ・整備スケジュール <p>平成27～28年度 実施設計、平成28～33年度 施設整備</p>		
評価指標	事業進捗率	1.3% (H26年度 0.7%)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>昨年度から実施設計に着手し、着実に準備は進んではいるものの、開校年度が決まるまでには、もう少し精査が必要とのことである。計画的に事業を進めていただきたい。</p> <p>また、物的環境が子どもの心の安定や学習効率に与える影響は大きいことから、下総みどり学園の先例を考慮しつつ、大栄地区にふさわしい、安心安全で特色ある教育環境づくりを進めて欲しい。</p>		

個別事業 10

事業名	教師用教科書指導書購入に係る経費	担当課	学務課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額	
	181千円	44,793千円	
28年度予算額 (参考)	19,201千円		
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>教員に教科書指導書を配布し、教材研究の充実及び資質・指導力の向上を図る。教科書指導書は4年に一度の教科書改訂に合わせて全て買い替える。改訂がない年度は小学校の学級増や中学校の教科担任数の変更等に伴う不足分を購入する。また、県の講師分は毎年度その配置に応じて必要な分を購入する。</p> <p>【平成27年度】</p> <p>27年度は市内小学校が4年ごとの教科書改訂が行われたことに伴い、教師用教科書・指導書などを購入した。中学校は改訂がないため、講師用の教科書等で不足分した分を購入した。また、27年度は、国語科4年生、算数科1・2年生、社会科5・6年生について教師用デジタル教科書を配置した。</p> <p>中学校においては、28年度教科書改訂に合わせて、教師用デジタル教科書の導入を図るため、試験的に中学校3校に教師用デジタル教科書を配置した。</p>		
評価指標①	教科書配付校数	33校 (H26年度 21校)	
評価指標②	配付延べ冊数	7,310冊 (H26年度 247冊)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>子どもたちの学力向上は、教員の指導力による影響が大きい。</p> <p>教科書指導書は高価なものであるが、教材研究及び資質・指導力の向上を図る上でも利用価値が高いものなので有効に活用されたい。</p> <p>デジタル教科書については、テレビ画像を使った興味深い授業を展開できることから、今後も普及拡大していくと思われる。</p> <p>教育現場の実態をきちんと評価した上で、効果的にデジタル教科書を活用できるよう、教員への研修等、指導技術の向上を図っていただきたい。</p>		

個別事業 1 1

事業名	小中学校連携教育推進事業		担当課	学務課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額		28年度予算額 (参考)
	44千円	129千円		134千円
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>平成26年度に開校した下総みどり学園をモデル校として小中一貫教育の研究を推進し、その成果を本市の小中連携教育へ広げていくことを目的とした事業である。平成25年度までは下総地区において「小中連携教育推進委員会」を設立し、小中学校の連携を強化した小中一貫教育の在り方を調査研究してきた。</p> <p>平成27年度については、より効果的な小中一貫教育の研究を行うために、小中一貫教育全国サミットに参加するとともに、下総みどり学園との連携を図った。</p> <p>また、大栄地区においても、大栄統合小学校中学校開校に向けて、小中一貫教育を含めた新たな教育方法について地区住民や保護者とともに調査研究するため、推進委員会を中心としたつくば市小中一貫教育校春日学園の視察を行った。</p>			
評価指標①	全国サミット参加回数	1回 (H26年度 1回)		
評価指標②	視察研修への地域住民参加者数	30人 (H26年度 0人)		
評価結果及び 今後の方向性	<p>下総みどり学園の小中一貫教育は、途切れることのない一貫した指導方針のもと、一人一人が着実に学力を身に付け、心身ともに健全で豊かな人間性と社会性を発揮して教育効果を上げている。</p> <p>大栄地区は、下総地区とは地理的条件や文化、歴史など様々な相違点があることから、下総みどり学園の成果を参考にしながらも、大栄地区にふさわしい、夢のある教育環境をつくっていただきたい。</p> <p>学校統合は地域住民の心が一つにならないと上手くいかない。子どもたちの視点を忘れずに、家庭・地域・学校が一体となって取り組む必要がある。</p> <p>また、下総、大栄地区以外の中学校区においても、下総みどり学園における教育効果と成果を参考にしつつ、小・中学校の教職員交流を深め、学校運営に生かしてもらいたい。</p>			

個別事業 1 2

事業名	学校支援地域本部事業	担当課	学務課
事業費	26 年度決算額 (参考)	27 年度決算額	
	千円	509 千円	
28 年度予算額 (参考)	649 千円		
評価年度 (H27 年度) 事業内容	<p>これまでも学校では、地域のボランティアの協力を得ながら学校運営や教育活動を行っているが、本事業は、これまでの地域のボランティアの協力を得ながら学校運営や教育活動をさらに広げ発展し、組織的なものとして、学校の求めと地域の教育力をマッチングして、より効果的な学校支援を行うために実施している。</p> <p>学校支援を組織的に展開するために、地域コーディネーターを配置し、地域コーディネーターが、学校のニーズに応じ、地域の方々にボランティアを依頼した。</p> <p>平成 27 年度は、4 校（久住小、神宮寺小、本城小、下総みどり学園）で実施し、授業講師や学習支援、町探検時の見守り、校内持久走練習時のコース内の見守り、ミシンなどの家庭科実習の補助、絵本の読み聞かせ、スクールバスの添乗、花壇や樹木の手入れ、農業体験講師等々の活動を行った。</p>		
評価指標①	推進委員会の開催数	3 回	
評価指標②	コーディネーター数	4 人	
評価結果及び 今後の方向性	<p>地域ボランティアの協力を得て、授業では補えない子どもたちへの学習支援や学校行事支援などを行ってもらえることは有り難い。</p> <p>地域の人材活用を図りながら、この事業が順調に定着し、発展していくことを期待する。</p> <p>しかし、地域の人材活用を図った類似事業は、他にも放課後子ども教室や家庭教育学級等があり、これらを包含したコーディネーターの目が大切になる。</p> <p>地域コーディネーターとして適切な人材を見つけ、真に学校の負担軽減、支援となるように努めて欲しい。</p>		

個別事業 1 3

事業名	個性を生かす教育推進事業	担当課	学務課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額	
	179,608 千円	179,584 千円	
28年度予算額 (参考)	185,888 千円		
評価年度 (H27 年度) 事業内容	<p>一人一人の児童生徒の個性の伸長を目指したきめ細かな指導を行うことをねらいとして、教員免許状を有する少人数学習推進教員を、31人以上の学級を多く有する小中学校に配置し、きめ細かな学習指導・生活指導を実施している。また、児童生徒の心身の健康の保持増進のため、養護教諭の免許状を有する健康推進教員を児童生徒の多い学校を中心に配置し、心身両面からの支援を実施している。</p> <p>(少人数学習推進教員 小学校 22人 中学校 19人) (健康推進教員 小学校 6人 中学校 6人)</p>		
評価指標①	勤務日数	217日 (H26年度 220日)	
評価指標②	授業受け持ち学級数	215学級 (H26年度 210学級)	
評価指標③	派遣校数	23校 (H26年度 24校)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>本事業は学校にとって大きな支えとなっており、学力格差を縮小させるためにも、少人数学習推進教員の果たす役割は大きい。</p> <p>学級担任や教科担任と密接に連携し、指導にあたっていただきたい。</p> <p>また、健康推進教員の配置についても、児童生徒の「心の居場所」としての保健室の機能を高めることができ、心身両面での支援が期待される。</p> <p>なお、推進教員の指導力を最大限に発揮させるには、事前の打ち合わせや研修にかかる部分が大きいことから、引き続き、教員の指導力の向上や体制づくりを行い、さらなる充実に向けて継続努力をして欲しい。</p>		

個別事業 1 4

事業名	小中学校就学援助費支給事業	担当課	学務課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額	
	61,423千円	62,084千円	
28年度予算額 (参考)	72,888千円		
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>経済的理由により就学が困難な児童生徒の保護者に就学援助費（学用品費・新入学児童生徒学用品費・修学旅行費・学校給食費等）を支給した。</p> <p>認定基準は、申請世帯の所得が生活保護法で生活に必要なと認めた額の1.3倍に給食費の実費相当額を加算した需要額を下回るものである。ただし、生活保護の基準は平成25年改正前の基準としている。</p> <p>（例1）親1人、小学生1人の2人世帯の需要額約166万円 世帯の収入が1人の給与のみで給与収入が263万円の場合、給与所得控除後の金額は165万円となるので世帯の収入要件は概ね該当</p> <p>（例2）親1人、小学生1人、中学生1人の3人世帯の需要額約239万円 世帯の収入が1人の給与のみで給与収入が366万円の場合、給与所得控除後の金額は238万円となるので世帯の収入要件は概ね該当</p> <p>※上記の概算事例額は持ち家の場合であり、借家の場合は家賃に応じて約75万円までの加算あり。</p>		
評価指標①	申請件数	811件（H26年度 826件）	
評価指標②	認定児童生徒数	770人（H26年度 772人）	
評価結果及び今後の方向性	<p>経済的な理由により就学が困難な児童生徒への援助は、経済格差が教育面での格差にならないためにも重要な事業である。</p> <p>また、支給については、子どもの心情に配慮しつつ、教育費以外の用途に流用されないよう実施しているとのことで評価できる。</p> <p>今後も公平性の観点から、適正な運用や、厳正な審査を実施されたい。</p> <p>なお、これだけの就学援助をしていることを、もっとアピールしても良いのではないかと。</p>		

個別事業 1 5

事業名	養護補助員配置事業		担当課	教育指導課
事業費	26 年度決算額 (参考)	27 年度決算額		28 予算額 (参考)
	86, 881 千円	90, 321 千円		99, 375 千円
評価年度 (27 年度) 事業内容	<p>特別支援学級及び通常の学級に在籍している特別な支援を必要とする児童生徒の障がい種別と状況に応じた個別指導の充実を図るとともに、安全な学校生活を送ることができるようにするため、養護補助員を小学校 14 校に 27 人、中学校 9 校に 13 人合計 40 人配置し、障がいのある児童生徒への教育の充実を図った。</p> <p>【配置校】</p> <p>◎小学校・・・成田小、三里塚小、久住小、向台小、加良部小、橋賀台小、新山小 吾妻小、玉造小、平成小、本城小、津富浦小、公津の杜小、下総小</p> <p>◎中学校・・・成田中、遠山中、西中、中台中、吾妻中、玉造中、下総中、大栄中 公津の杜中</p>			
評価指標①	養護補助員配置校数	23 校 (H26 年度 25 校)		
評価指標②	雇用人数	40 名 (H26 年度 40 名)		
評価指標③	対象児童数	289 名 (H26 年度 286 名)		
評価結果及び 今後の方向性	<p>介助を要する児童生徒を対象とした養護補助員を増置することは、教員、子ども、保護者ともに教育活動の安全が確保できて大変有り難い。</p> <p>今後も維持継続をしていただきたい。</p> <p>ただし、養護補助員という名称からは、養護教諭の補助を行う健康推進教員と混同しやすく、事業内容からは特別支援教育支援員との違いが見えにくい。</p> <p>もう少し、役割の違いを明確にする工夫が必要ではないか。</p>			

個別事業 16

事業名	学校図書館司書配置事業		担当課	教育指導課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額		28年度予算額 (参考)
	44,799千円	44,011千円		48,016千円
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>学校図書館の利活用の促進を図り、豊かな人間性を育み、情報化社会に対応できる児童生徒を育成するため、27人の学校図書館司書を兼務もあるが、小中学校全校に配置し、図書館の環境整備、蔵書管理、情報支援、読み聞かせ等の読書活動を推進した。</p> <p>週5日勤務 8人 週4日勤務 8人 週3日勤務 11人 合計27人</p>			
評価指標①	配置校数	35校 (H26年度 35校)		
評価指標②	雇用人数	27人 (H26年度 27人)		
評価指標③	児童一人あたりの年間貸出冊数	63冊 (H26年度 58冊)		
評価指標④	生徒一人あたりの年間貸出冊数	21冊 (H26年度 21冊)		
評価結果及び 今後の方向性	<p>司書が工夫しながら、本を読む楽しさを伝える努力をしており、その結果、子どもたちの読書量増加として成果が表れている。</p> <p>一人職である司書が力を発揮するためには、周囲の協力と互いの情報交換が不可欠である。その点、教育委員会や校長の支援がきちんとなされており、かつ情報交換と研修の機会も用意されていることは評価できる。</p> <p>国語力・読解力は全ての学力の基礎であり、それは読書によって大いに培われることから、本を読む子どもが増えるよう、なお一層の努力を期待したい。</p> <p>また、必要度の高い業務なので、過重労働にならないよう、人員配置に配慮願いたい。</p>			

個別事業 17

事業名	学力調査事業		担当課	教育指導課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額		28年度予算額 (参考)
	9,968千円	9,987千円		10,169千円
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>教員が児童生徒の学力の共通的な傾向や特質を捉えて、教育課程の編成及び指導計画に生かすとともに、児童生徒が自分自身の学習状況を理解するための一助とすることと、個々の学習内容の習熟状況を把握し、学力向上に向けて指導方法の工夫改善を図ることを目的として行っている。</p> <p>学力・学習状況調査は、小学生(1～6年生)7,453人、中学生(1～2年生)2,210人、合計で9,663人の児童生徒が検査に参加。</p> <p>また、分析結果と各学校への指導や教育施策の改善等について、通知するとともに、本市児童生徒全体の学力・学習状況の傾向を知らせた。</p> <p>各学校では、分析結果を受けて、自校の学力向上の具体的な改善策を検討し、次年度の学習指導等に生かしている。</p>			
評価指標①	参加児童生徒数	9,663人 (H26年度 9,450人)		
評価指標②	児童生徒の学力把握(実施校数)	35校 (H26年度 35校)		
評価結果及び 今後の方向性	<p>市の学力検査は、その分析結果をどのように生かすのか、基本線が一貫したものでなければならない。次年度の学習計画に生かすのか当該年度の教科指導に生かすのかを明確にする必要がある。</p> <p>その上で、単に全体の傾向を見るだけでなく、一人一人の個人分析も行い、指導に生かしてもらいたい。</p> <p>また、情報共有についても、保護者面談等を利用して、学力調査の分析結果をフィードバックするなどの工夫をしても良いのではないかと。</p> <p>必要な事業であり、より一層効果的な活用を図るために、事業内容の改善に期待したい。</p>			

個別事業 18

事業名	特色ある学校づくり事業	担当課	教育指導課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額	
	12,415千円	12,649千円	
28年度予算額 (参考)	12,775千円		
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>地域の特性や学校の実態に応じ、校長のリーダーシップを基に、自主性・自律性を高め、特色ある学校づくりを推進した。</p> <p>各学校では、保護者の願いや地域の要望などを踏まえつつ、調査研究計画を作成している。それに基づき「学校教育目標の具現化や児童生徒の生きる力を育むこと」などをねらいとして、校長会に研究委託を行った。</p> <p>【主な事業】「研修の充実」「確かな学力の定着」「地域交流活動の充実」「学校環境の整備」「特別活動の充実」「国際理解教育」など</p> <p>【活動内容】講師を招聘した研修、児童生徒の体験活動や交流活動等</p>		
評価指標①	学校数	35校 (H26年度 35校)	
評価指標②	事業数	167事業 (H26年度 164事業)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>校長のリーダーシップを基に地域活動や情操教育、職場体験などに取り組んでおり、学校にとっては、魅力、特色のある学校づくりに取り組めるため、大変有り難い事業となっている。</p> <p>しかし、成果を把握しにくい事業でもあるため、毎年効果を確実に検証することを忘れず、マンネリに陥らないように改善を図りながら有効活用をして欲しい。</p> <p>また、保護者に対しても理解していただけるように事業内容を報告し、客観的評価を受けるよう努めていただきたい。</p>		

個別事業 19

事業名	教育支援センター運営事業	担当課	教育指導課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額	
	10,017千円	9,692千円	
28年度予算額 (参考)	12,172千円		
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>平成27年度の本市の不登校児童生徒数は、小学校で20人、不登校率0.27%（H26：32人、0.43%）中学校で93人、不登校率2.78%（H26：107人、3.05%）となっている。このような不登校児童生徒及び保護者からの相談への対応、不登校児童生徒への適応指導を行う等、学校復帰を支援するため、適応指導教室『ふれあいる一む21』を開設している。</p> <p>具体的支援としては、個別学習指導、集団活動、指導員との相談、遠足、体育館活動、調理実習、クリスマス会、保護者面談、担任と指導員の連絡会、不登校に係る懇談会など、さまざまな体験を通して児童生徒に自信を持たせ、通所から学校へ通うことができるような支援を実施した。</p>		
評価指標①	指導員数	7人（H26年度 7人）	
評価指標②	通所人数	22人（H26年度 25人）	
評価結果及び 今後の方向性	<p>不登校の原因は様々であり、保護者や家庭環境に問題があるケースも多く、現場である学校の努力にも限界がある。また、不登校児童生徒の学校復帰を支援する適応指導教室「ふれあいる一む21」は子どもや保護者にとって心強く重要な存在である。</p> <p>また、小・中ともに不登校児童生徒が大きく減少しており、少人数学習推進教員や養護補助員の配置等を含む総合的な施策の成果が出ていることは大いに評価できる。</p> <p>通所に至っていない児童生徒へのケア、サポートを考えていく必要もあるが、今後も引き続き、保護者・学校・教育支援センターが連携を密に行い、一人でも多くの不登校児童生徒が登校に結びつくよう、継続的な支援をお願いしたい。</p>		

個別事業 20

事業名	教育センター運営事業	担当課	教育指導課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額	
	38,933千円	36,578千円	
28年度予算額 (参考)	41,585千円		
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>教職員に対する支援活動を行い、本市の教育の振興と充実を図ることを目的としている。</p> <p>主な事業としては、各種研修講座の企画運営、授業に役立つ資料の作成や提供、就学相談、教育相談、特別支援教育の推進などを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修事業実施回数 38回 延べ参加人数 1,081人 ・就学相談件数のべ 208件 ・教育相談件数のべ 230件 ・特別支援教育巡回指導員訪問 670件 		
評価指標①	研修実施回数	38回 (H26年度 37回)	
評価指標②	研修参加者数	1,081人 (H26年度 1,344人)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>教職員の資質向上に向けた研修や授業の支援、教育資料・教材の収集など、教育センターの担う役割は非常に大きく重要な事業である。</p> <p>また、子どもたちの学力向上には、教職員の指導力の向上が欠かせないことから、指導主事が現場である学校を訪問し、直接授業支援を行い指導する機会を多く設けることが大切である。</p> <p>特に、新学習指導要領におけるアクティブラーニングなど、能動的な学びが要求される授業の手法については、講義や指導資料の配付だけでは、教員にきちんと理解されないため、授業を通して指導をしていただきたい。</p> <p>その点、本市の指導主事が昨年度以上に、各学校の授業研究に参加して指導を行ったことは評価できる。是非継続を願いたい。</p>		

個別事業 2 1

事業名	問題を抱える子ども等の自立支援事業	担当課	教育指導課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額	
	5,408千円	6,006千円	
28年度予算額 (参考)	6,331千円		
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>性格や身体、不登校、対人関係の悩みなど様々な課題をもつ児童生徒及び保護者がおり、教育相談の必要性が高くなっている。中学校においては、県からスクールカウンセラーが配置されているが、多くの小学校においては、教育相談を行えるスクールカウンセラーが派遣されていない。そこで、様々な課題をもつ児童や子育てに悩む保護者に対して、拠点となる小学校12校に教育相談員を配置し、学校や家庭において様々な問題を抱えている児童の支援を行った。</p> <p>【拠点校】 成田小、三里塚小、久住小、向台小、加良部小、吾妻小、玉造小、公津の杜小、平成小、津富浦小、川上小、下総小</p> <p>【延べ相談件数】 延べ相談件数 5,803件</p> <p>【主たる相談事例】 性格や身体、不登校、対人関係に関する事など</p> <p>【相談時間・日数】 1校週当たり2回(1回4時間)、年間70回</p>		
評価指標①	拠点校数	12校 (H26年度 12校)	
評価指標②	延べ相談件数	5,803件 (H26年度 4,531件)	
評価結果及び今後の方向性	<p>小学校においても、友人関係や成績、家庭の問題などで悩む児童は多くなり、子どもの教育で悩む保護者も増えてきている。</p> <p>実際、相談件数は年々増加をしており、専門的な経験と知識を持った教育相談員を配置する本事業は、学校や保護者にとって大変有り難いものとなっている。</p> <p>また、不登校など深刻な問題へと発展させないためにも、教育相談員の役割は重要である。</p> <p>拠点校も徐々に増えてはいるが、拠点校以外の学校からも、相談の要望が増加していることから、さらなる事業の拡充が望まれる。</p>		

個別事業 2 2

事業名	特別支援教育支援員配置事業		担当課	教育指導課
事業費	26 年度決算額 (参考)	27 年度決算額		28 年度予算額 (参考)
	57,824 千円	57,834 千円		63,396 千円
評価年度 (H27 年度) 事業内容	<p>学校教育法の改正により、平成 19 年 4 月から小中学校等に在籍する教育上特別な支援を必要とする児童生徒等に対して、障がいによる困難を克服するための教育を行うことが明確に位置付けられた。文部科学省からも特別支援教育支援員の配置充実が求められている。</p> <p>このようなことから、本市では、通常学級に在籍する肢体不自由や発達障害、学習の遅れのある児童生徒に対して、特別支援教育支援員を 21 名配置し、個々の障がいの状況に応じて、移動や排泄などの学校教育活動上の日常生活の介助や情緒の安定や安全の確保、学習の個別支援等に直接対応する学習活動上のサポートを行い、生活力、学力の向上を図った。</p> <p>小学校：19 校に対して 19 人 中学校：2 校に対して 2 人</p>			
評価指標①	支援員配置校数		21 校 (H26 年度 21 校)	
評価指標②	支援児童生徒数		709 人 (H26 年度 601 人)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>特別支援教育支援員を配置し、通常の学級に在籍する障がいのある児童生徒に対し、個々の障がいに応じた適切な介助や情緒安定確保、学習支援等のサポートをするこの事業は、児童生徒、保護者、担任にとって、大変有り難い事業である。</p> <p>また、障がいのある児童生徒への支援は、他の児童生徒への支援でもあり、移動時のサポートなどは、学校の安全確保の面でも大事である。</p> <p>対象となる児童生徒数も年々増加しており、本事業の重要度もより高くなっていることから、障がいへの理解と適切な対応ができる人材のさらなる確保が望まれる。</p>			

個別事業 2 3

事業名	学校給食事業		担当課	学校給食センター
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額		28年度予算額 (参考)
	1,076,813 千円	1,074,210 千円		1,272,948 千円
評価年度 (H27 年度) 事業内容	<p>栄養バランスのとれた食事を提供することにより、成長期にある児童・生徒の健康の増進、体位の向上を図るとともに、望ましい食習慣を身につけるため、市内小中学校 35 校及び幼稚園 1 園に給食を実施した。また、各学校における食に関する指導と家庭教育学級において、栄養士が児童生徒及び保護者に対し、正しい食事のあり方や家庭における子どもの食生活の指導を行った。</p> <p>年間給食日数：192 日</p>			
評価指標①	年間給食日数	192 日 (H26 年度 195 日)		
評価指標②	年間給食数	2,186,897 食 (H26 年度 2,211,942 食)		
評価結果及び 今後の方向性	<p>成長期にある児童生徒にバランスと栄養のとれた食事を提供することは、健康増進や体位の向上につながり、非常に重要なことである。</p> <p>今後は、温かい給食だけでなく、プロの目を通した美味しさへの追求も続けて、さらに一段階上を目指して欲しい。</p> <p>また、滞納者対策への取り組みについては、徴収率も上がっているとのことから評価できる。不公平感を抱かせないためにも、引き続き、滞納額の削減に取り組んでいただきたい。</p> <p>なお、食育に対しては、その重要性を保護者にしっかりと考えてもらうことが重要である。効果的に事業展開するため、指導方法等のさらなる工夫・改善を期待したい。</p>			

個別事業 2 4

事業名	学校給食施設整備事業		担当課	学校給食センター
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額		28年度予算額 (参考)
	74,693千円	681,207千円		161,306千円
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>平成22年度策定の学校給食施設整備実施計画に基づき、平成28年4月に運用を開始した公津の杜小学校学校給食共同調理場の建設工事を行った。</p> <p>同調理場からは、小学校2校（公津の杜小、新山小）に給食を実施する。</p> <p>また、美郷台小学校学校給食共同調理場整備に係る基本設計及び地質調査を行った。</p> <p>【公津の杜小学校学校給食共同調理場施設概要】</p> <p>構 造：鉄骨造地上2階建</p> <p>延床面積：1454.24㎡ 共同調理場部分 1097.63㎡ 児童ホーム部分 356.61㎡</p> <p>機 能：調理能力最大1500食</p> <p>そ の 他：特別調理室（アレルギー対応食を調理する部屋）設置</p>			
評価指標①	施設整備箇所数		2箇所（H26年度 2箇所）	
評価指標②	事業進捗率（施設整備率）		20%（H26年度 20.0%）	
評価結果及び 今後の方向性	<p>親子方式の導入により、温かい給食の提供、きめ細かいアレルギー食の対応が可能となることから、できるだけ早期の整備を図っていただきたい。</p> <p>また、美郷台小学校学校給食共同調理場の整備については、課題の解消を急ぎ、その後の整備計画への影響を最小限にするよう努力されたい。</p>			

個別事業 25

事業名	青少年健全育成事業		担当課	生涯学習課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額		28年度予算額 (参考)
	9,442千円	11,620千円		17,409千円
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>社会教育関係団体のうち青少年教育に関する団体（青少年育成市民会議、青少年相談員連絡協議会、青少年の輪を育てる会、子ども会連絡会、映画サークルつばさ、ボーイスカウト）に補助金を交付することにより、団体の活動を支援する。市内小学4・5・6年生を対象としたジュニアリーダー養成研修会を実施した。</p> <p>【平成27年度】</p> <p>青少年育成市民会議・青少年健全育成協議会</p> <p>青少年音楽祭 参加者21校（小学校20 中学校1）参加児童生徒：988人</p> <p>青少年相談員連絡協議会</p> <p>オールナイトハイク 37チーム（計369人）</p> <p>青少年交流綱引き大会 90チーム（計1,484人）</p> <p>青少年の輪を育てる会</p> <p>高校生・勤労青少年バレーボール大会 11チーム（111人）</p> <p>成田市子ども会連絡会</p> <p>第1回親子体験事業「地引き綱体験」（市子ども会連絡会会員）→台風のため中止</p> <p>第2回親子体験事業「空港整備地区見学」20人（ ）</p> <p>第3回親子体験事業「親子お楽しみウォークラリー」39人（ ）</p> <p>子ども会まつり 4,500人（国際市民フェスティバルと同時開催）</p> <p>ジュニアリーダースクラブ 24人（市子ども会主催・共催各事業に協力）</p> <p>ジュニアリーダー養成研修会 3月5日（土）参加人数：61人（小学4～6年生）</p> <p>会場：沖ノ島公園（海辺の自然体験、レクリエーション）</p>			
評価指標①	総実施回数		8回（H26年度 9回）	
評価指標②	延べ参加児童生徒数		3,096人（H26年度 3,119人）	
評価結果及び今後の方向性	<p>青少年の教育活動に各団体が地域に根差して活動していることは評価できる。</p> <p>また、現在は地域行事等においても若者を集めることが難しいが、各種行事に多くの参加者を集められたことは素晴らしい。特にオールナイトハイク等は、昨年度よりも参加者が増加しており、努力の成果が見られる。引き続き改善を図るとともに、新たな魅力を生む活動計画についても支えていただきたい。</p> <p>青少年相談員の配置については地域によって差があり、地域の児童生徒数とバランスが取れていないことから改善を願いたい。</p> <p>ジュニアリーダー養成研修は、単に実施するだけでなく、参加した児童生徒が礼儀や協調性といった基礎的な素養とともにリーダーシップを身に付けられるよう配慮いただきたい。</p>			

個別事業 26

事業名	放課後子ども教室推進事業		担当課	生涯学習課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額		28年度予算額 (参考)
	2,823千円	3,319千円		4,715千円
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>放課後や週末等に小学校の空き教室や校庭等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取り組みを実施するものである。これにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。</p> <p>実施日：豊住小・遠山小 毎週木曜日 八生小・加良部小 隔週木曜日 下総みどり学園 隔週月曜日 美郷台小 毎月第3木曜日</p> <p>平成27年度実施状況・・豊住小 参加延べ人数939人、教室開催35回（27人／回） 遠山小 参加延べ人数574人、教室開催24回（24人／回） 八生小 参加延べ人数711人 教室開催20回（36人／回） 下総みどり学園 参加延べ人数696人、教室開催20回（35人／回） 美郷台小 参加延べ人数235人、教室開催10回（24人／回） 加良部小 参加延べ人数326人、教室開催11回（30人／回）</p> <p>豊住小では絵手紙教室、おやつ作り、順大生と遊ぼう等を実施。遠山小では走り方教室や生け花教室、工作、八生小ではスポーツ吹き矢、サツマイモ掘り、生け花教室、スポーツゲーム、下総みどり学園では、シャボン玉遊び、バルーン工作、ボール遊び、美郷台小では英語教室や茶道体験、手話教室、ジャズダンス教室、加良部小では、ニュースポーツ体験、リース作り、昔の遊び、バッジ作り等を実施した。</p>			
評価指標①	活動拠点数	6校（H26年度5校）		
評価指標②	延べ参加児童数	3,481人（H26年度3,053人）		
評価指標③	教室開催回数	120回（H26年度104回）		
評価結果及び 今後の方向性	<p>各地区で個性ある居場所づくりが展開されている。また、年々、参加児童数が増えていることから、事業の拡大が望まれる。</p> <p>また、本市の事業については、外部からの評価も高く、各校が様々な表彰を受けていることは評価できる。</p> <p>今後もコーディネーターの育成や人材の確保などを図るとともに、学校支援地域本部などの新規の類似事業とのすり合わせを行いながら、さらなる充実発展となるよう期待する。</p>			

その他の事業

- ・ 教育資金利子補給事業（教育総務課）
- ・ 小中学校教育用コンピュータ整備事業（教育総務課）
- ・ 小中学校施設維持整備事業（学校施設課）
- ・ 児童生徒遠距離通学費補助事業（教育指導課）
- ・ 小学校スクールバス運行事業（教育指導課）
- ・ 特別支援学級児童生徒支援事業（教育指導課）
- ・ 小中学校体育活動事業（教育指導課）
- ・ 高等学校等開放講座開催事業（生涯学習課）
- ・ 子どもの居場所づくり推進事業（生涯学習課）

ほか

柱3 生涯を通して学びスポーツができる環境づくりを推進する

施策の方向

- ・ 生涯学習内容の充実
- ・ 文化芸術活動の推進
- ・ 生涯学習活動に関する支援
- ・ 生涯学習施設の充実
- ・ 生涯学習の推進体制づくり
- ・ 地域に根ざしたスポーツ活動の促進
- ・ スポーツを通じた交流の促進
- ・ スポーツ活動の基盤の充実

総合評価	B 概ね目標を達成できた、または目標達成に向けて進んでいる
評価所見	<p>生涯学習分野における、生涯大学校や明治大学・成田社会人大学については、概ね適正な管理運営がなされており、市民にとっても定着した有益な事業となっているが、明治大学・成田社会人大学は、20年目を迎え、変革が必要な時期に来ている。高齢者だけでなく、若い世代にも参加しやすい環境となるよう改善が望まれる。</p> <p>図書館、公民館の各種サービスについては、ここ数年、利用者目線での改善が図られており評価できる。</p> <p>国際文化会館や文化芸術センターについては、本市の文化芸術の発信拠点として重要な施設となることから、利用状況等を把握しながら、さらなる活性化に向けて、適切な運用管理をお願いしたい。</p> <p>生涯スポーツ分野では、本市のスポーツ施設は充実しているものの、一部老朽化している施設もあることから、計画的に改修を進めていただきたい。</p> <p>また、スポーツ施設における公平・公正な運営管理の徹底については、利用者のモニタリングや教育委員会からの指導により、改善が見られたことは評価できる。今後も引き続き事業の改善を続けていただきたい。</p> <p>昨年度開催された世界少年野球大会等、世界レベルの大会の誘致については、市民のスポーツへの関心を高め、子どもたちにも夢や希望を与える貴重な機会であり、大変有意義な事業である。今後も計画的にビッグイベントが誘致されることを期待したい。</p> <p>なお、2020年の東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致</p>

	<p>に向けては、安全で充実したスポーツ施設となるよう、適切に施設の整備・改修を進めるとともに、ボランティア等の質の向上にも取り組んでいただきたい。</p> <p>昨年度から改善や工夫が見られる事業もあるが、市民目線での検証を進め、さらにもう一段階上を目指して各事業を進めていただきたい。</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- 評価指標：A 目標を達成できた、または目標達成に向けて順調に進んでいる
- B 概ね目標を達成できた、または目標達成に向けて進んでいる
- C 目標どおり進んでいるが、一部達成できなかった
- D 目標の達成ができなかった、または目標の達成は困難である

個別事業 27

事業名	生涯大専校管理運営事業		担当課	生涯学習課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額		28年度予算額 (参考)
	8,875千円	8,031千円		8,784千円
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>社会環境の変化に適応できるよう幅広い分野にわたる学習の機会を提供し、高齢者の生きがいを促進するとともに、学習成果を地域社会の様々な活動の中で生かせるまちづくりを目指し、60歳以上の市民を対象とした3年制の生涯大学院の運営を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教養講座（必須）25回×3学年（計6クラス）（歴史・健康・環境等） ・ 専門講座（選択）15回×6講座（園芸・陶芸・書道・油絵・音楽・体操） ・ その他課外活動（学園祭・グラウンドゴルフ・広報紙の編集等） ・ 平成27年度生徒数（入学式時） 1年67人 2年82人 3年85人 計234人 			
評価指標①	当該年度入学者数	67人（H26年度 92人）		
評価指標②	当該年度卒業生数	84人（H26年度 76人）		
評価結果及び 今後の方向性	<p>本事業は、生涯にわたって学び続けようという人にとっての理想的な学びの場であり、多種多様な教育講座、専門講座を提供するだけでなく、その学習成果を小学校での陶芸教室や福祉施設での音楽会を開催するなど、地域社会の中で生かせるまちづくりを目指しており、成果がでてきている。</p> <p>若干人数が減ってきているので、マンネリ化しないよう、受講者のニーズに応じた学習メニューを充実させ、生涯学習の楽しみと喜びが共有できるよう、引き続き事業の推進を図りたい。</p>			

個別事業 28

事業名	明治大学・成田社会人大学運営事業	担当課	生涯学習課																
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額																	
	5,143 千円	5,363 千円																	
28年度予算額 (参考)	6,249 千円																		
評価年度 (H27 年度) 事業内容	<p>高校生以上の市民を対象に、明治大学と連携し大学の講師陣・講座運営等の協力を得て、平成9年度より社会人大学を実施している。</p> <p>国際的な諸問題などを学ぶ「国際社会課程」、国内・地域の諸問題などを学ぶ「地域社会課程」、農作物や環境問題などを学ぶ「緑地環境課程」の3講座で、年間10回程度の講義を行った。</p> <p>平成27年度実施状況</p> <table border="1"> <tr> <td>受講者数</td> <td>235 人</td> <td>修了者数</td> <td>206 人</td> </tr> <tr> <td>国際社会課程</td> <td>114 人</td> <td>〃</td> <td>97 人</td> </tr> <tr> <td>地域社会課程</td> <td>80 人</td> <td>〃</td> <td>72 人</td> </tr> <tr> <td>緑地環境課程</td> <td>41 人</td> <td>〃</td> <td>37 人</td> </tr> </table>			受講者数	235 人	修了者数	206 人	国際社会課程	114 人	〃	97 人	地域社会課程	80 人	〃	72 人	緑地環境課程	41 人	〃	37 人
受講者数	235 人	修了者数	206 人																
国際社会課程	114 人	〃	97 人																
地域社会課程	80 人	〃	72 人																
緑地環境課程	41 人	〃	37 人																
評価指標①	講座数	30 講座 (H26 年度 30 講座)																	
評価指標②	受講生数	235 人 (H26 年度 245 人)																	
評価結果及び 今後の方向性	<p>明治大学・成田社会人大学は創設 20 年目を迎え、定着している事業ではあるが、参加者は高齢者が多く、若い世代にも参加しやすい環境づくりに向けて改革が必要な時期に来ている。</p> <p>現在、課程の見直しに着手しているとのことであるが、成田の将来性を考えたまちづくりへの参画等、柔軟な発想と新しい視点での事業展開を期待したい。</p>																		

個別事業 29

事業名	国際文化会館管理運営事業		担当課	生涯学習課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額		28年度予算額 (参考)
	81,325千円	80,308千円		84,157千円
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>教育及び文化の発展、並びに市民の福祉の向上に資するため、成田国際文化会館を設置し、その管理運営を指定管理者(株)ケイミックスに委託している。</p> <p>また、成田国際文化会館を拠点に実施する「青少年の交流・体験活動の促進に資する事業(ヤングスペースなりた)」に対し補助を行い、子どもたちにとって魅力ある体験的なメニューを提供した。</p> <p>活動内容</p> <p>○ヤングスペースなりた</p> <p>陶芸、油絵、水彩画、絵手紙、料理教室、木工作、乗馬教室</p> <p>チャレンジキャンプ、自動車メカニック、カヌー体験、理科教室</p>			
評価指標①	国際文化会館利用者数	209,815人(H26年度 180,587人)		
評価指標②	国際文化会館事業実施数	28回(H26年度 31回)		
評価指標③	ヤングスペースなりた実施数	11回(H26年度 10回)		
評価指標④	ヤングスペースなりた延べ参加者数	750人(H26年度 623人)		
評価結果及び今後の方向性	<p>国際文化会館は、本市の文化振興事業をはじめ、数々の催しが開催される文化発信の拠点であることから、引き続き適正な管理運営を行う必要がある。</p> <p>その点、利用者アンケートやモニタリング、運営協議会等の外部意見を取り入れて、適正運営に向けた努力をしているのは評価できる。</p> <p>また、青少年の放課後・休日における交流体験活動を支援する「ヤングスペースなりた」については、もう少し周知方法を工夫してはいかかがか。事業の相互乗り入れは資金面や認知度でもプラスになることから、リーダー研修や国際こども絵画交流展等、他事業での活用も期待したい。</p>			

個別事業 30

事業名	文化芸術センター管理運営事業		担当課	生涯学習課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額		28年度予算額 (参考)
	98,640 千円	208,305 千円		135,747 千円
評価年度 (H27 年度) 事業内容	<p>中心市街地に立地するメリットを最大限に発揮し、その機能を充実強化し、若者を引き寄せ、シンボリックな施設となり、市民の文化向上と地域文化の創造・振興を図る事のできるホール・ギャラリーの整備に努めた。</p> <p>平成 27 年 7 月にオープンし、子供から高齢者まで幅広い年齢層をターゲットに、多彩なジャンルのイベントを開催した。また、施設の貸し出しも行い、適正な維持管理に務めた。</p> <p>○購入備品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホール吊りマイク等の音響機材、照明機材、ギャラリー用照明機材・運搬台車、館内什器など <p>○主要事業</p> <p>スカイタウンホール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キングクリームソーダコンサート、市川海老蔵こけら落とし公演など 14 事業 <p>スカイタウンギャラリー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間国宝美術館展、北原照久コレクション展など 7 事業 			
評価指標①	文化芸術センター利用者数	49,114 人 (H26 年度 実績なし)		
評価指標②	文化芸術センター事業実施数	21 回 (H26 年度 実績なし)		
評価結果及び 今後の方向性	<p>文化芸術の発信拠点、さらには文化振興の場として、駅前という好立地の場所に、最新設備を備えた「成田市文化芸術センター」がオープンして1年が経った。認知度や利用率をさらに向上させたい。</p> <p>広く周知するためにも、文化事業や市の主催する行事等を多く開催するとともに、多彩なジャンルのイベント等を誘致し、多くの市民に来てもらうよう努力をしてもらいたい。</p>			

個別事業 3 1

事業名	健康づくり運動「健康ちば21」推進事業	担当課	生涯スポーツ課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額	
	2,196千円	1,935千円	
28年度予算額 (参考)	1,698千円		
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>スポーツを通じた健康づくり、体力づくりの契機となるよう、市民相互の親睦を目的としたイベントとして成田スポーツフェスティバルを開催した。前年と比較して事業所単位での参加が増加したことにより、参加チーム数、参加者数ともに増となった。</p> <p>また、健康ちば推進員連絡協議会の行う健康づくり事業に対して助成を行い、関東デイ・ウォーキング、成人高齢者体力・運動能力調査を実施し、市民の健康づくりや体力づくりに寄与した。</p> <p>なお、健康ちば推進員連絡協議会は、スポーツ推進委員と地区保健推進員が構成員となり、各種事業を展開してきたが、それぞれの分野で活動していただくこととし、平成27年度末をもって発展的解消となり、事業については、スポーツ推進委員連絡協議会が引き継ぐこととなった。</p>		
評価指標①	事業数	7事業 (H26年度8事業)	
評価指標②	事業参加者数	4,448人 (H26年度3,440人)	
評価結果及び今後の方向性	<p>自由参加形式のスポーツフェスティバルも平成27年度で4回目となり、参加者数が1回目と比べて延べ3,000人以上増加するなど、新たな市民スポーツの祭典として確実に定着し、発展をさせている。</p> <p>また、健康ちば推進員連絡協議会が発展的解消となり、スポーツ推進委員連絡協議会が事業を引き継ぐことになったが、負担が過多とならないよう、その体制や研修のあり方等については配慮を願いたい。</p> <p>今後も、参加しやすく、楽しみながら継続できるスポーツイベントが提供されることを期待したい。</p>		

個別事業 3 2

事業名	各種競技大会誘致事業	担当課	生涯スポーツ課
事業費	26 年度決算額 (参考)	27 年度決算額	
	2,219 千円	18,140 千円	
28 年度予算額 (参考)	3,140 千円		
評価年度 (H27 年度) 事業内容	<p>トップレベルで競技する各種競技大会を誘致し、観るスポーツの楽しみとスポーツに対する意識の高揚を図るため、ラグビーフェスティバル、プロ野球イースタンリーグ公式戦、千葉県小学生相撲選手権大会、バスケットボール日本リーグ成田大会を開催した。</p> <p>また、第 25 回目となる世界少年野球大会千葉大会を開催し、世界 14 の国と地域から参加した少年少女への野球教室、中華台北と大韓民国より招待した少年野球チームと地元の 12 チームとの国際交流試合を行ったほか、世界の子どもたちとの交流や日本文化を体験するための交流行事を行った。</p>		
評価指標①	誘致事業数	5 事業 (H26 年度 3 事業)	
評価指標②	来場者数 (参加者数)	3,899 人 (H26 年度 1,284 人)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>身近な会場で、トップレベルのアスリートの最高のパフォーマンスを見ることができこの事業は、市民のスポーツへの関心を深めるとともに、子どもたちに夢や希望を与えることができる貴重な事業であり、大変有意義なものである。</p> <p>本市は、国内外の様々なスポーツ大会を誘致できるだけだけのスポーツ施設や宿泊施設を有していることから、今後も計画的にビッグイベントが誘致されることを期待したい。</p> <p>また、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを見据えて、段階的に観戦や応援、ボランティア等への参加について、市民のスキルアップを目指してみてもどうか。</p>		

個別事業 3 3

事業名	スポーツ団体育成事業	担当課	生涯スポーツ課							
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額								
	24,118千円	26,156千円								
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>市民の幅広いスポーツ・レクリエーション活動への参加機会の拡大を目指し、各種事業の中心的活動を担う成田市体育協会、成田市スポーツ少年団、成田市レクリエーション協会の育成・強化を図るため、指導及び助成を行った。</p> <p>なお、成田市体育協会については、平成27年4月に一般社団法人として法人格を取得した。</p>									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>団 体</th> <th>加盟数 (H27年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般社団法人成田市体育協会</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>成田市スポーツ少年団</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>成田市レクリエーション協会</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>			団 体	加盟数 (H27年度)	一般社団法人成田市体育協会	52	成田市スポーツ少年団	36	成田市レクリエーション協会
団 体	加盟数 (H27年度)									
一般社団法人成田市体育協会	52									
成田市スポーツ少年団	36									
成田市レクリエーション協会	8									
評価指標①	事業数	483事業 (H26年度 507事業)								
評価指標②	参加者数	65,234人 (H26年度 49,100人)								
評価結果及び今後の方向性	<p>(一社)成田市体育協会をはじめとする各団体への支援は、地域、市民への幅広いスポーツ・レクリエーション活動の活性化につながるため、今後も引き続き指導及び助成をお願いしたい。</p> <p>一方で、排他的にならないよう、多方面からの意見をもらいながら、各団体の育成を進める必要がある。</p> <p>また、事務局の企画運営能力及び専門部の行動力を強化するためにも、体育協会と同様に、他の団体においても自立させることを検討すべきではないか。</p> <p>そのほか、スポーツ少年団においては、団員(児童)の心や体の成長に配慮した指導方法を学ぶことも大切であることから、しっかりとした研修の義務付け等、事故や怪我を未然に防ぐ努力もしてもらいたい。</p>									

個別事業 3 4

事業名	スポーツ広場等管理事業	担当課	生涯スポーツ課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額	
	30,445千円	51,927千円	
28年度予算額 (参考)	26,156千円		
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>市民が広くスポーツ・レクリエーション等を気軽に楽しめるスポーツ広場等は、各地区が指定管理者となり、管理・運営を行っている。</p> <p>また、北羽鳥多目的広場の管理については、生涯スポーツ課が管理・運営を行っている。</p> <p>【スポーツ広場】</p> <p>遠山スポーツ広場等（多目的広場・テニスコート／管理：遠山地区体育協会）</p> <p>八生第1スポーツ広場（多目的広場／管理：八生地区青少年健全育成協議会）</p> <p>八生第2スポーツ広場（テニスコート／管理：八生地区青少年健全育成協議会）</p> <p>中郷スポーツ広場（多目的広場・テニスコート／管理：中郷地区青少年健全育成協議会）</p> <p>公津スポーツ広場（多目的広場／管理：公津地区青少年健全育成協議会）</p> <p>久住第1スポーツ広場（多目的広場／管理：久住地区青少年健全育成会）</p> <p>久住第2スポーツ広場（多目的広場／管理：小泉青少年健全育成会）</p> <p>豊住第1スポーツ広場（多目的広場／管理：豊住地区体育協会）</p> <p>豊住第2スポーツ広場（パークゴルフ場／管理：竜台区自治会）</p> <p>ニュータウンスポーツ広場等（野球場・多目的広場・テニスコート／管理：成田ニュータウンスポーツ連盟）</p>		
評価指標①	スポーツ広場利用者数	62,752人（H26年度 50,739人）	
評価指標②	北羽鳥多目的広場利用者数	19,568人（H26年度 16,104人）	
評価結果及び今後の方向性	<p>指定管理者による公平・公正な管理が課題となっているが、教育委員会からの指導や利用者モニタリングを通して、一定の改善が図られたことは評価できる。</p> <p>しかし、依然として地区ごとに指定管理者の意識の差や、施設の使用方法に違いが見られることから、市内統一の共通マニュアルを作成して徹底を図るなど、さらなる指導と対処をお願いしたい。</p> <p>また、利用者については、前年度に続きH27年度も大幅に増加しており、多くの市民が地区スポーツ広場で活動していることから、引き続き、利用者の安全性、利便性の向上に努め、円滑で適正な管理運営を引き続き行っていただきたい。</p>		

個別事業 35

事業名	運動公園等整備事業	担当課	生涯スポーツ課
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額	
	111,935千円	438,707千円	
28年度予算額 (参考)	178,962千円		
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>スポーツ施設の整備充実を図るため、老朽化している中台運動公園陸上競技場の観覧席等及び野球場のスコアボード改修工事に向けて、実施設計を行った。</p> <p>また、中台運動公園体育館のより快適な利用を図るため、既存空調設備の更新に加え、新たに柔道場、剣道場、トレーニング室、卓球場、2階コンコースへ空調設備の設置を行うとともに、老朽化したアリーナ床の張替工事を行った。</p>		
評価指標①	運動公園数	3公園 (H26年度 3公園)	
評価指標②	修繕等件数	5件 (H26年度 6件)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>建設から30年を経過したスポーツ施設の大規模改修は、次々と必要になってくるので、施設の将来性や必要性を精査しつつ、市全体の長期的なビジョンを検討し、計画的に進めていただきたい。</p> <p>また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致に向けても、安全で充実した施設となるよう整備・改修を進め、関係者を歓迎して欲しい。</p>		

個別事業 36

事業名	公民館講座教室等開催事業		担当課	公民館
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額		28年度予算額 (参考)
	3,054 千円	1,612 千円		2,338 千円
評価年度 (H27 年度) 事業内容	<p>公民館 13 館で地域の特色を考慮しながら、子どもから高齢者までを対象とし、生涯学習のねらいを達成すべく講座・教室、体験学習等を開催した。</p> <p>事業数 42 事業 講座・教室回数 256 回 定員数 2,150 人 受講者数 3,379 人(延べ5,819 人)</p> <p>○事業の主なもの 外国人のための日本語教室、子ども体験学習セミナー(小学生低学年・高学年)、セカンドライフ支援セミナー、歴史ウォーキング、親子えびがに釣り教室、生きがいセミナー、夏休み親子教室、植木剪定教室、ムーブメント教室、伊能歌舞伎鑑賞教室、陶芸教室、など</p>			
評価指標①	講座・教室開催回数	256 回 (H26 年度 342 回)		
評価指標②	受講者数	3,379 人 (H26 年度 3,570 人)		
評価結果及び 今後の方向性	<p>地域住民の学習課題に応えるため、多世代、多志向に対応した数多くの事業を実施し、定員を上回る状況となっている。年代別に魅力的な講座をセットする等、努力の跡が見えるのも良い。</p> <p>また、リピーターも多く、子どもたちも楽しく参加している様子が見られることから、引き続き、人気講座のさらなる魅力アップや体験型事業の開拓など行い、事業の充実を図っていただきたい。</p>			

個別事業 37

事業名	公民館施設維持管理事業		担当課	公民館
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額		28年度予算額 (参考)
	176,605千円	174,047千円		191,865千円
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>公民館13館の利用者の安全・快適を目指して、良好な維持管理に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 非常勤職員賃金 43人分 43,978千円 ・ 修繕 43件 6,376千円 八生公民館研修室空調機修繕、豊住公民館浄化槽修繕など ・ 工事 3件 1,458千円 中央公民館1階女性用トイレ洋式化工事、橋賀台公民館階段手摺設置工事など ・ 委託 68件 69,825千円 公民館管理業務委託(シルバー人材センター) 機械警備委託、空調設備保守管理委託、清掃委託、自家用電気工作物保守点検委託、消防用設備保守点検委託、浄化槽維持管理委託、エレベーター保守点検委託、草刈り及び植木伐採委託、舞台照明設備保守点検委託、ごみ収集委託、自動ドア保守点検委託など 			
評価指標①	開館日数 (13館合計)		3,869日 (H26年度 3,869日)	
評価指標②	来館者数 (13館合計)		290,244人 (H26年度 294,967人)	
評価結果及び 今後の方向性	<p>地区住民の拠り所であり、各種サークルの活動拠点及び生活文化の発信基地として公民館の果たしている役割は大きい。</p> <p>また、ここ数年で利用者目線でのサービス改善が見られることも評価できる。</p> <p>外灯など夜間利用者への安全配慮にも留意しつつ、引き続き、市民にとって安全で快適な施設となるよう、適切な管理運営、維持管理をお願いしたい。</p>			

個別事業 38

事業名	公民館大規模改修事業	担当課	公民館				
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額					
	34,993千円	5,511千円					
28年度予算額 (参考)	32,000千円						
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>公民館は13館すべてが建設後20年以上経過し、うち半数以上が30年以上経過しており、老朽化が進行している。大規模改修は、隔年で実施している特殊建築物定期調査及び設備保守管理業者の報告を基に優先順位をつけ、計画的に実施している。</p> <p>平成27年度は、平成28年度から実施予定の大栄公民館に係る改修工事に向けた設計、アスベスト調査を委託して行った。</p> <p>○大栄公民館大規模改修工事 委託料</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>設計委託料</td> <td>5,365千円</td> </tr> <tr> <td>アスベスト調査委託料</td> <td>146千円</td> </tr> </table>			設計委託料	5,365千円	アスベスト調査委託料	146千円
設計委託料	5,365千円						
アスベスト調査委託料	146千円						
評価指標	工事実施館数	0館 (H26年度 2館)					
評価結果及び 今後の方向性	<p>計画的に改修を行っているが、公民館は多くの市民が利用する施設であることから、開館しながら工事をする場合には安心安全を第一に考えて実施し、休館する場合には、なるべく期間を短くするようにお願いしたい。</p> <p>また、地域住民の身近な避難所でもあるため、バリアフリー、耐久性などにも留意する必要がある。</p> <p>なお、今後改修工事を予定している大栄公民館のホールは、行事で利用している団体も多いことから、使用団体への事前周知と、窓口での適切な対応等について徹底をしていただきたい。</p>						

個別事業 39

事業名	図書館事業		担当課	図書館
事業費	26年度決算額 (参考)	27年度決算額		28年度予算額 (参考)
	130,569千円	132,441千円		136,538千円
評価年度 (H27年度) 事業内容	<p>生涯学習の拠点として、社会情勢の変化や市民要求に対応した資料の収集を心がけ、図書貸出サービス、子どもの読書活動の推進、障がい者サービス、各種講座等を開催した。</p> <p>1. 開館日数</p> <p style="padding-left: 40px;">本館・公津の杜分館 293日</p> <p style="padding-left: 40px;">公民館図書室等 278日</p> <p style="padding-left: 40px;">三里塚コミュニティセンター図書室 292日</p> <p>2. 登録者数・蔵書点数</p> <p style="padding-left: 40px;">登録者数 41,322人 蔵書点数 1,009,962点</p> <p>3. 主な事業</p> <p style="padding-left: 40px;">(1) おはなし会</p> <p style="padding-left: 80px;">土曜日のおはなし会、0・1歳、2・3歳向けのおはなし会、季節のおはなし会、学校訪問おはなし会（ボランティアの協力）</p> <p style="padding-left: 40px;">(2) 各種講座等</p> <p style="padding-left: 80px;">児童講座、文学講座、市史講座、音訳協力者養成講座、絵本の読み聞かせ講座など</p>			
評価指標①	図書貸出点数	1,330,686点（H26年度 1,319,824点）		
評価指標②	貸出利用者数	355,579人（H26年度 351,124人）		
評価結果及び今後の方向性	<p>図書館は、生涯学習及び国際市民を育てるための拠点であり、かつ市民の文化レベルの向上に大きな役割を果たす大切な施設である。</p> <p>また、本市の施設はサービスが充実しており、企画や各種講座なども工夫されているが、それに満足せずに毎年改善をし、利用者数が年々増加していることは評価できる。</p> <p>引き続き、蔵書の充実とサービスの向上を進め、近隣市の範となる魅力ある図書館となるよう努めていただきたい。</p> <p>なお、公民館図書室においては、蔵書数の増加や定期的に様々なジャンルの図書を入れ替えるなど、さらなるサービスの向上をお願いしたい。</p>			

その他の事業

- ・ 青少年劇場開催事業（生涯学習課）
- ・ 文化芸術振興事業（生涯学習課）
- ・ 国際文化会館施設整備事業（生涯学習課）
- ・ 各種大会教室等の開催事業（生涯スポーツ課）
- ・ 運動公園等管理事業（生涯スポーツ課）
- ・ 公民館だより発行事業（公民館）
- ・ 公民館まつり事業（公民館）
- ・ 図書整備事業（図書館）
- ・ 視聴覚教育研修事業（図書館）

ほか